

早期景気観測調査 新潟商工会議所管内 10月分 各業界からのコメント

◎建設業

- ・前月と状況は変わらず、物価上昇の一服感はあるが、時間外労働の上限規制の適用を半年後に控え、労働力と業況の両立は引き続き厳しい。
- ・仕事は増えてきており、引き合いも多いが、人出不足である。求人を出しても応募がない。
- ・ガソリン価格、電気料、資材等価格の上昇(高騰)が大きな影響を及ぼしている。
- ・インボイス制度が始まったことにより、請求書に番号等を記載するため、余計な失費が発生した。
- ・インボイスの関係で社内は少し混乱している。
- ・新潟市内の箱物建築が低調なため、受注が前年対比で激減している。

◎製造業

- ・景気はコロナ前水準くらいまで戻っていると言われているが、製造業に関してはまだ良くはないと感じる。大きな落ち込みはないが、楽観はできない。ひとつひとつ慎重に進めていきたい。
- ・インボイス制度に振り回されている。

◎卸売業

- ・猛暑から徐々に涼しくなり、国産の畜産物の出荷が増え始め相場が少しずつ下がり仕入れコストが安くなり始めた。
- ・夏の異常高温・少雨傾向により青果物の入荷は極めて少なく、相場は高値で推移している。食品の値上げの影響もあり、今後消費者の買い控えが懸念される。
- ・十分な価格転嫁ができず、採算が悪化している。
- ・インボイス制度の事務負担、およびそれに乗じた手数料負担依頼がある。
- ・インボイス制度に怨嗟の声が上がっている。この制度は国民にどのようなメリットがあるのか。
- ・公共資材卸売りのため、頻発する工期延伸で製品納期が延び、請求が出せず困っている。

◎小売業

- ・気温の安定とともに、販売にズレが生じていた秋のガーデニング・家庭菜園用品は好調に推移している。小売業界においては、行動制限緩和により、経済活動の正常化が進む一方、エネルギー価格や原材料価格高騰に加え、円安による仕入価格の上昇など、まだまだ先行きが不透明な状況が続いている。そのような状況の中、外出需要の高まりを受け、カー用品・レジャー用品の販売は好調に推移。一方で、食品・生活必需品に関する消費の優先度は引き続き高く、今後も耐久消費財の販売が苦戦すると予想される。

◎サービス業

- ・夏の終わりとともに人の動きが落ち始めている。
- ・またこれからのエネルギー高騰や食材等の値上げ、またインボイス施行の報道が強いせい、全体的に自粛傾向が感じられ、先の動きも鈍くなってきている。
- ・10月に入り増税・物価上昇・エネルギー価格の上昇等の不安要素はまだまだ大きいため、先行きについては不透明である。
- ・円安(150円目前)もこれ以上進むことは輸入に頼る日本としては感心できない。
- ・燃料価格が高止まりで推移しているが、価格転嫁が思うように進まない。
- ・業況は悪くないが固定経費の上昇で採算性がやや下降気味である。
- ・コロナも第5類に移行され、人の流れも変わってきた。マスクの着用なども自己管理になったことも良かったと思う反面コロナが無くなった訳ではないため、医療・福祉などはそのまま継続。

- ・燃料の高騰、食材費の高騰など自社努力では全てをカバーすることが難しく、入居されている方に、10月より値上げをお願いするなど対策を行っている。今後、さらに高騰することがあれば厳しい状況となる。
- ・物価高騰や最低賃金の上昇により経営環境は一段と厳しい状況が続いている。
- ・人手不足も依然として改善されず、社員募集に対しても応募の反応が見られないでいる。人員不足問題が一番の経営課題となっている。
- ・景気は回復傾向にあるが、乗務員不足が総売上額を押し下げている上に物価高が災いしてかなり厳しい。
- ・最低賃金ギリギリで募集していることが人手不足に繋がる一つの原因となっているため、見直しを優先しなければならない。
- ・売上を拡大していきたいが、人手不足の状態が続いている。
- ・採用に関するイベントなどで会社をPRする機会がほしい。
- ・タクシー業界は報道で取り上げられている通り、乗務員不足が深刻。稼働する車両が激減しているため、稼働している乗員は逆に売上が良く給与も上昇しているが、会社全体の売上は減り、経費が上昇し経営が圧迫されている。このままではバスやタクシー等の公共交通機関は成り立たなくなる。
- ・人手不足の折、人材紹介会社からの紹介を受け、少し不安要素がある人を受け入れたが3ヶ月で出社できなくなり、人材確保の難しさを痛感している。